

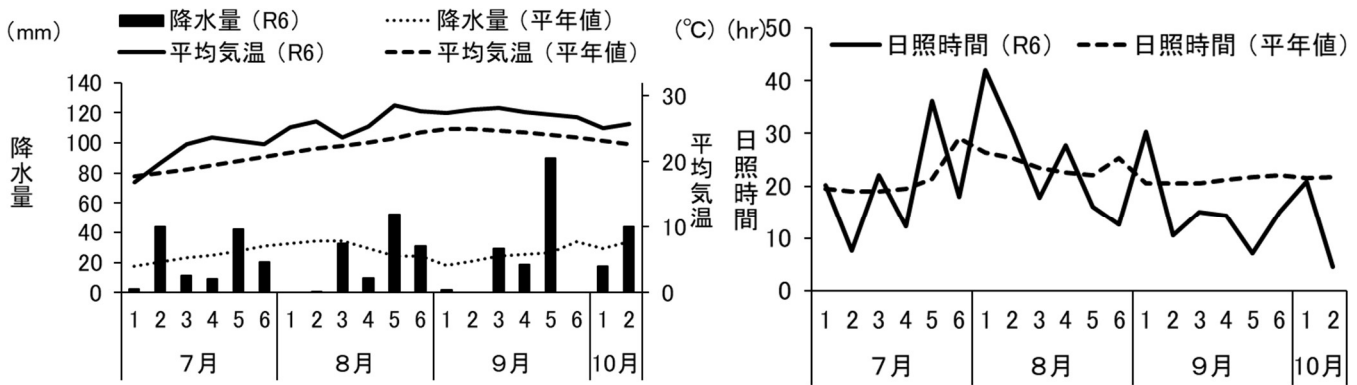
仙台大豆作情報

令和6年度第4号
令和6年10月18日発行
宮城県仙台農業改良普及センター
TEL 022-275-8410

●収穫作業のポイント●

- ・汚粒を防ぐため、収穫前に雑草、青立ち株を抜き取りましょう！
- ・適期収穫、適切な乾燥調製で上位等級に入る品質を確保しましょう！

1 気象経過（7月～10月上旬）



- ・開花期を迎えた7月下旬からの天候は、気温が平年より高く推移し、降水量は7月下旬にまとまった雨があり、8月は中旬以降に雨の日が続きました。
- ・日照時間は、7月上中旬、8月下旬から9月中旬にかけて少なく推移しました。

2 生育概況（標播）

表 生育調査ほ調査結果（9月2日時点）

品種 (地区)	調査年	播種日	開花期	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	成熟期
タンレイ (宮城野区鶴ヶ谷)	本年	6月16日	8月2日	43.3	11.3	0.4	
	前年	6月8日	7月29日	61.5	13.7	2.8	10月26日
	平年	6月9日	7月30日	65.8	14.1	3.0	10月19日
ミヤギシロメ (若林区荒井)	本年	6月12日	8月5日	87.7	15.3	3.4	
	前年	6月20日	8月7日	77.0	16.0	3.7	11月2日
	平年	6月10日	8月5日	72.3	15.5	4.4	11月4日

- ・タンレイは、前年と比較して主茎長が短く、分枝数も少ないことから、生育量が少ない状況です。ミヤギシロメは、主茎長が平年よりも長く、一部で蔓化がみられました。
- ・10月15日時点で、タンレイは落葉期に入っており（写真1）、数日で完全落葉が見込まれます。葉や莢にフタスジヒメハムシによる食害が多くみられました。ミヤギシロメは、黄葉期であり、落葉が始まっています（写真2）。

- ・完全落葉後、15～25日で成熟期となることから、タンレイは10月下旬、ミヤギシロメは11月上～中旬に成熟期に入ると予測されます。
- ・両調査ほ場で、フタスジヒメハムシ、ツメクサガ、カメムシ類などが確認されていたため、品質面への影響が懸念されます。



写真1 タンレイの様子 (10月15日)

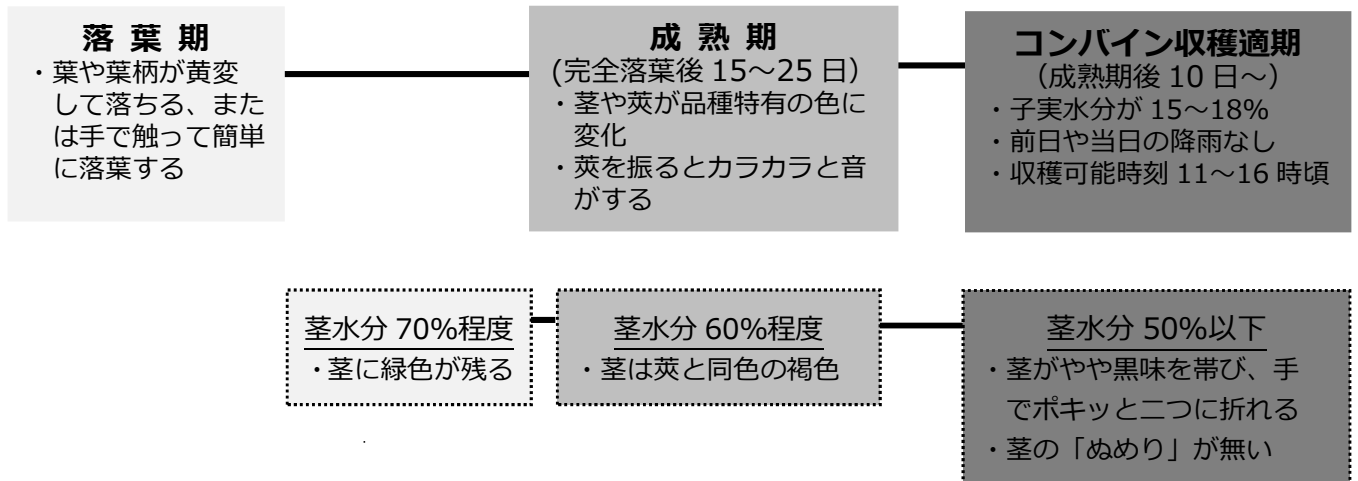


写真2 ミヤギシロメの様子 (10月15日)

3 収穫作業のポイント ～適期収穫と汚粒対策～

コンバインによる収穫適期の判定は、子実と莢の水分がポイントです。莢・莢の色や莢内での子実の振動音、莢の切断音など総合的に判断する必要があります。大豆の成熟経過を以下に示しますので、ほ場ごとの生育ステージを把握して作業計画を立てましょう。

【大豆の成熟経過とコンバイン収穫適期】



◎大豆のコンバイン収穫において問題となるのは「汚粒」です。
 以下の点を十分に理解して収穫作業を進めましょう。

(1) 収穫前に雑草や青立ち株を除去し、汚粒の発生を防ぐ

莢や実の色がある雑草（イヌホオズキなど）、大型で乾いていない雑草（アメリカセンダングサなど）、青立ち株は莢水分が高く汚粒の発生原因になります。**収穫前に可能な限り抜き取りましょう。**

(2) 適期収穫を行う

コンバインによる収穫判断は、子実水分や茎水分を目安に行いましょう。

- ・子実水分が高い(20%以上)→つぶれ粒等の発生
- ・水分が低い(14%以下) →割れ豆等を主体とした損傷粒が多く発生する
- ・茎水分が高い →汚粒発生の原因

茎水分の高い株について、莢が著しく少ない青立ち株の場合雑草と同じように抜き取る必要がありますが、生育むらによって水分が高い場合や莢が成熟していても茎が緑色のままで、莢数が普通～多い場合は、可能な限り茎水分の低下を待ってから収穫しましょう。

(3) 収穫作業は、午前 11 時～午後 4 時頃

収穫時間によっても穀粒損失と汚粒の発生割合は変化します。莢や子実水分が高まる時間帯を避け、午前 11 時から午後 4 時頃を目安に作業しましょう。前日に降雨があった場合は、莢の水分状況を確認してから作業をしましょう。

(4) 作業速度を抑えて、土を掻き込まない

汚粒発生が一番大きな原因として「土の掻き込み」があげられます。約 10cm 以上の刈り高さを確保するとともに、作業速度はゆっくりとし、コンバインの刈刃が土を掻き込まないように注意しましょう。

特に「生育が旺盛で作物量が多い」、「倒伏している」などの場合はさらに作業速度を抑えて刈りましょう。土がヘッダ部に入ったら速やかに作業を停止し、ヘッダ部の土や莢の除去など掃除を行うことが重要です。

4 乾燥作業

県産大豆は大粒種が多く、吸水性にバラツキが出やすくなります。乾燥調製作業では大豆の吸水性に大きな影響を及ぼす穀粒水分と粒揃いが、最も重要なポイントです。仕上がりは、被害粒や異物がなく、子実水分は 13%程度で、よく成熟した粒揃いの良いものを目標に調整しましょう。

(1) こまめな水分測定

ほ場によっては、子実水分のバラツキが大きい場合があるので、荷受時、乾燥時にこまめに水分測定を行いましょう。

(2) 適正な乾燥温度

- ・循環式乾燥機等による加温乾燥の場合は、送風温度を 30℃以下とし、裂皮粒やしわ粒の発生を抑えましょう。
- ・平均水分が 18%を超える場合は、さらに送風温度を下げ乾燥しましょう。

5 東北地方 1 か月予報 (令和 6 年 10 月 10 日 仙台管区气象台発表)

<予報のポイント>

○暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

秋の農作業安全確認運動 ～令和6年9月1日から11月30日まで～

農作業安全確認運動テーマ

『徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策』

県内における過去10か年の農作業死亡事故は、農業機械作業に係る事故が全体の約8割を占め、そのうちトラクターによるものが半数を超えます。

◎以下の対策を徹底しましょう。

【事故防止対策】

- ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践
(危険箇所での減速、危険箇所の迂回ルートの設定など)
- 危険箇所の改善(道路端や曲がり角の草刈り、路肩の補強など)

【被害軽減対策】

- シートベルトとヘルメットの着用
- 安全キャブ・フレーム付きトラクターの利用

